



平成22年10月期 第2四半期決算短信

平成22年5月28日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社 神戸物産
コード番号 3038 URL <http://www.kobebussan.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 沼田 昭二

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼STB部門長 (氏名) 矢合 康浩

四半期報告書提出予定日 平成22年6月11日

配当支払開始予定日 —

TEL 079-496-6610

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年10月期第2四半期の連結業績(平成21年11月1日～平成22年4月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年10月期第2四半期	67,933	9.8	1,306	414.0	1,372	518.0	536	342.3
21年10月期第2四半期	61,857	—	254	—	222	—	121	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年10月期第2四半期	66.77	—
21年10月期第2四半期	15.02	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年10月期第2四半期	29,460	12,435	42.2	1,548.45
21年10月期	31,989	12,356	38.6	1,538.58

(参考) 自己資本 22年10月期第2四半期 12,435百万円 21年10月期 12,356百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年10月期	—	0.00	—	35.00	35.00
22年10月期	—	0.00	—	—	—
22年10月期(予想)	—	—	—	30.00	30.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年10月期の連結業績予想(平成21年11月1日～平成22年10月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	137,000	8.7	1,900	149.0	1,950	238.6	850	247.9	105.84

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有
新規 1社 (社名 株式会社神戸クック) 除外 1社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 有

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年10月期第2四半期	8,800,000株	21年10月期	8,800,000株
② 期末自己株式数	22年10月期第2四半期	769,100株	21年10月期	769,100株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年10月期第2四半期	8,030,900株	21年10月期第2四半期	8,071,830株

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間(平成21年11月1日～平成22年4月30日)の我が国経済は、輸出に牽引された企業収益の改善や政府の経済対策に応じた個人消費の回復が見られるなど、景気が回復過程にあることを印象付けるものでありましたが、過去の景気後退幅は大きく、引続き雇用状況が低調な水準であり、依然としてデフレ基調下にある事から今後の回復にはいまだに不安なものがあります。

食品業界におきましても、先行きへの不安感から消費者の生活防衛意識による低価格志向は日を追って高まっており、デフレによる企業間の値下げ競争は激しさを増しております。

このような環境の中、当社グループは「安価でクオリティの高い商品」という消費者ニーズへの迅速な対応をすべく、強みである自社グループ内において商品の製造から販売まで手掛ける「製販一体」の仕組により、安全安心かつ利益率の高い商品を扱った「食卓応援&爆弾価格」や「挑戦します！日本最安値」といった施策を展開しており、また、2000年3月に三木店をオープンしてから「業務スーパー」が生誕10周年を迎えた事を記念して2月より「生誕10周年セール」を新たに開催し、業務スーパーの市場競争力を強化してまいりました。

その結果、国内企業の多くが前年実績を割り込む中、当社グループは3月及び4月において過去同月での最高利益を達成するなど好調に推移しました。

なお、平成22年4月16日に発表致しました「カンボジア投資プロジェクト中止及び特別損失の発生について」のとおり、当該プロジェクトの撤退に伴い減損損失等が発生しております。

これらにより、第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は67,933百万円(前年同期比9.8%増)、営業利益は1,306百万円(前年同期比414.0%増)、経常利益は1,372百万円(前年同期比518.0%増)四半期純利益は536百万円(前年同期比342.3%増)と、前年同連結累計期間に比べ増収増益と順調に推移しております。

事業の種類別セグメント売上高の概況は次の通りです。

(業務スーパー事業)

当第2四半期連結累計期間における業務スーパー事業の出店状況は、23店舗の新規出店(退店7店舗)があり、直轄エリア(関東1都3県、関西2府4県)300店舗の展開を達成し、総店舗数は523店舗と着実に販売網を拡大しております。販売体制につきましては、食品業界で唯一の製販一体企業として、低価格高品質なオリジナル商品の開発に邁進し、それらの商品で構成された「食卓応援&爆弾価格」、「業務スーパー生誕10周年記念」等の販売戦略を推進することで、新規顧客の開拓やリピーターの獲得に努めてまいりました。

これらの結果、当社から業務スーパー店舗への出荷ベースは、前年比で平均110%を超えるなど好調に推移し、当第2四半期連結累計期間の売上高は67,586百万円(前年同期比10.5%増)となりました。

(神戸クック事業)

神戸クック事業に関しましては、今後の流通業界の中核的要素になる「中食」分野に対して独自のノウハウを活かし中食のリーディングカンパニーとしての存在を早期に確立、事業拡大を図るべく「株式会社神戸クック」を平成22年2月に設立いたしました。

「神戸クックワールドビュッフェ」の新規出店はありませんでしたが、「安全・安心・健康」をコンセプトに当社グループの食に対する技術とノウハウを活かした独自の発想で新商品の開発による商品ラインナップの強化や、ディナータイム限定のメニューを導入するなどの施策を行うことで、より一層の事業の発展に取り組んでまいりました。

また、「Green's K」につきましては、3月に関西1号店となる「Green's K ヒダカヤ黒田店」が和歌山市内にオープンいたしました。昨今の少子高齢化や核家族化、女性の社会進出など社会的構造の変化に対応した当社グループ独自の新業態として、今後も加速度的に多店舗展開を目指しております。

神戸クック事業における当第2四半期連結累計期間の売上高は523百万円(前年同期比23.1%増)と順調に推移いたしました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期末における総資産は前連結会計年度に比べ2,528百万円減少し、29,460百万円となりました。また、純資産は79百万円増加し、12,435百万円となりました。

資産の減少の主なもの、現金及び預金の減少2,520百万円などがあります。負債は、前連結会計年度末に比べ2,607百万円減少しておりますが、その主なもの、買掛金1,948百万円及び短期借入金1,280百万円の減少によるものであります。純資産の増加の主なものは順調な業績による利益剰余金の増加であります。

(キャッシュ・フローの状況)

営業活動によるキャッシュ・フローは、656百万円の支出（前年同期は1,050百万円の収入）となりました。これは、主に仕入債務の支払等によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、606百万円の支出（前年同期は1,978百万円の支出）となりました。これは、主に子会社工場の管理・製造設備増強に伴う有形固定資産の取得による支出が主なものとなっております。

財務活動によるキャッシュ・フローは、1,588百万円の支出（前年同期は1,708百万円の収入）となりました。これは、主に短期借入金の返済によるものであります。

以上の結果、現金及び現金同等物の当四半期末残高は、前連結会計年度末に比較し、2,858百万円減少し、9,106百万円となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年度10月期の通期業績予想につきましては、業績動向を考慮し、平成21年12月14日に公表した業績予想の数値を変更しております。詳細につきましては、平成22年4月16日付「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

(注) 上記の予測は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおりますので、実際の業績は、さまざまな要素により異なる結果となる可能性があります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容
株式会社神戸クック	兵庫県加古川市	9	神戸クック事業	100	役員の兼任2名 外食・中食事業等の展開

(注) 主要な事業の内容欄には、事業の種類別セグメントの名称を記載しております。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

当第2四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

表示方法の変更

前第2四半期連結累計期間において、営業外収益の「その他」に含めて記載しておりました「補助金収入」は、営業外収益総額の100分の20を超えたため、当第2四半期連結累計期間では区分掲記することとしました。なお、前第2四半期連結累計期間の営業外収益の「その他」に含まれる「補助金収入」は4,000千円であります。

前第2四半期連結会計期間において、営業外収益の「その他」に含めて記載しておりました「補助金収入」は、営業外収益総額の100分の20を超えたため、当第2四半期連結会計期間では区分掲記することとしました。なお、前第2四半期連結会計期間の営業外収益の「その他」に含まれる「補助金収入」は4,000千円であります。

5. 四半期連結財務諸表
(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年4月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,408,041	11,928,302
売掛金	7,526,446	7,049,235
商品及び製品	2,491,504	2,587,590
仕掛品	4,697	52,867
原材料及び貯蔵品	281,857	222,066
その他	649,092	567,737
貸倒引当金	△74,194	△76,644
流動資産合計	20,287,444	22,331,155
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,788,622	2,906,732
土地	3,185,603	3,284,778
その他（純額）	1,161,089	1,108,879
有形固定資産合計	7,135,314	7,300,391
無形固定資産		
のれん	37,095	58,809
その他	313,398	301,796
無形固定資産合計	350,493	360,605
投資その他の資産		
その他	1,699,409	2,008,507
貸倒引当金	△12,279	△11,623
投資その他の資産合計	1,687,129	1,996,884
固定資産合計	9,172,938	9,657,881
資産合計	29,460,382	31,989,037

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年4月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年10月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	8,271,790	10,220,490
短期借入金	829,166	2,109,442
未払法人税等	627,270	226,014
賞与引当金	32,187	60,004
その他	833,195	667,711
流動負債合計	10,593,611	13,283,663
固定負債		
長期借入金	2,858,789	2,883,315
退職給付引当金	60,550	56,600
預り保証金	3,429,350	3,329,850
その他	82,629	79,439
固定負債合計	6,431,318	6,349,205
負債合計	17,024,930	19,632,868
純資産の部		
株主資本		
資本金	64,000	64,000
資本剰余金	8,323,714	8,323,714
利益剰余金	5,181,329	4,926,163
自己株式	△727,343	△727,343
株主資本合計	12,841,700	12,586,534
評価・換算差額等		
為替換算調整勘定	△406,247	△230,365
評価・換算差額等合計	△406,247	△230,365
純資産合計	12,435,452	12,356,169
負債純資産合計	29,460,382	31,989,037

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年11月1日 至 平成21年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年11月1日 至 平成22年4月30日)
売上高	61,857,415	67,933,838
売上原価	59,341,423	64,065,735
売上総利益	2,515,991	3,868,103
販売費及び一般管理費	2,261,764	2,561,470
営業利益	254,226	1,306,632
営業外収益		
受取利息	14,880	19,863
受取配当金	2,750	—
受取賃貸料	25,246	55,952
補助金収入	—	42,079
デリバティブ評価益	92,671	—
雑収入	20,916	9,629
その他	4,000	33,456
営業外収益合計	160,464	160,980
営業外費用		
支払利息	5,157	18,661
賃貸収入原価	18,335	45,102
為替差損	168,978	—
その他	164	31,616
営業外費用合計	192,635	95,380
経常利益	222,055	1,372,231
特別利益		
固定資産売却益	1,716	3,240
貸倒引当金戻入額	41,172	711
投資有価証券売却益	29,028	—
その他	—	858
特別利益合計	71,917	4,810
特別損失		
固定資産除却損	4,824	5,007
固定資産売却損	—	1,721
減損損失	—	428,895
貸倒損失	—	1,060
特別損失合計	4,824	436,685
税金等調整前四半期純利益	289,149	940,357
法人税、住民税及び事業税	319,289	633,694
法人税等調整額	△151,306	△229,583
法人税等合計	167,982	404,110
少数株主利益	△76	—
四半期純利益	121,243	536,246

(第2四半期連結会計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結会計期間 (自 平成21年2月1日 至 平成21年4月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 平成22年2月1日 至 平成22年4月30日)
売上高	30,804,854	34,597,872
売上原価	29,583,882	32,589,893
売上総利益	1,220,971	2,007,979
販売費及び一般管理費	1,179,328	1,405,385
営業利益	41,643	602,594
営業外収益		
受取利息	9,256	16,989
受取賃貸料	12,686	31,770
補助金収入	—	22,289
デリバティブ評価益	96,440	—
為替差益	83,058	—
雑収入	12,692	2,085
その他	4,000	28,208
営業外収益合計	218,134	101,344
営業外費用		
支払利息	2,617	9,194
賃貸収入原価	9,230	24,497
その他	11	16,420
営業外費用合計	11,859	50,112
経常利益	247,918	653,826
特別利益		
固定資産売却益	914	—
特別利益合計	914	—
特別損失		
固定資産除却損	3,225	2,850
固定資産売却損	—	999
減損損失	—	428,895
貸倒損失	—	1,060
特別損失合計	3,225	433,805
税金等調整前四半期純利益	245,608	220,020
法人税、住民税及び事業税	205,040	348,930
法人税等調整額	△58,704	△251,937
法人税等合計	146,335	96,993
少数株主利益	△76	—
四半期純利益	99,348	123,027

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年11月1日 至 平成21年4月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年11月1日 至 平成22年4月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	289,149	940,357
減価償却費	275,223	379,307
減損損失	—	428,895
のれん償却額	22,714	21,714
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△43,251	△1,792
受取利息及び受取配当金	△17,630	△19,863
支払利息	5,157	18,661
為替差損益 (△は益)	191,750	△4,231
有形固定資産売却損益 (△は益)	△1,716	△1,519
売上債権の増減額 (△は増加)	△183,039	△433,895
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△314,133	78,602
仕入債務の増減額 (△は減少)	751,140	△1,946,250
預り保証金の増減額 (△は減少)	72,450	99,500
その他	26,914	11,663
小計	1,074,728	△428,848
利息及び配当金の受取額	17,630	19,863
利息の支払額	△5,160	△18,347
法人税等の支払額	△37,120	△228,940
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,050,076	△656,272
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,844,989	△446,954
有形固定資産の売却による収入	5,452	19,958
投資有価証券の取得による支出	△100,433	—
投資有価証券の売却による収入	117,648	—
貸付けによる支出	—	△100,000
貸付金の回収による収入	17,050	11,214
定期預金の預入による支出	△143,500	△264,800
定期預金の払戻による収入	—	225,080
その他	△30,086	△50,549
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,978,858	△606,050
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	2,000,000	—
短期借入金の返済による支出	—	△2,000,000
長期借入れによる収入	—	700,000
長期借入金の返済による支出	△3,602	△4,802
自己株式の取得による支出	△44,814	—
ファイナンス・リース債務の返済による支出	—	△2,318
配当金の支払額	△242,643	△281,081
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,708,940	△1,588,203
現金及び現金同等物に係る換算差額	△379,712	△7,957
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	400,446	△2,858,483
現金及び現金同等物の期首残高	9,140,989	11,965,264
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,541,435	9,106,780

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第2四半期連結累計期間（自 平成20年11月1日 至 平成21年4月30日）

	業務スーパー 事業 (千円)	神戸クック 事業 (千円)	リラクゼーショ ン・ステイ事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	61,188,983	425,355	243,075	61,857,415	—	61,857,415
(2) セグメント間内部 売上高又は振替高	90,813	—	—	90,813	△90,813	—
計	61,279,797	425,355	243,075	61,948,229	△90,813	61,857,415
営業利益	744,035	51,836	△148,905	646,967	△392,740	254,226

(注) 1. 事業区分の方法

事業区分は、内部管理上採用している方法によっております。

2. 各事業区分の主要な内容

事業区分	主要事業
業務スーパー事業	業務用食品の製造 卸売り（フランチャイズ方式）及び小売業
リラクゼーション・ステイ事業	ヴィラ・スピカ及び併設するカフェ&ビュッフェ店の運営
神戸クック事業	中食・外食市場の開拓を企画 惣菜販売 カフェ&ビュッフェ店の展開

当第2四半期連結累計期間（自 平成21年11月1日 至 平成22年4月30日）

全セグメントの売上高の合計及び営業利益の合計額に占める業務スーパー事業の割合がいずれも90%を超えているため、事業の種類別セグメントの記載を省略しております。

〔所在地別セグメント情報〕

前第2四半期連結累計期間（自 平成20年11月1日 至 平成21年4月30日）及び当第2四半期連結累計期間（自 平成21年11月1日 至 平成22年1月31日）

本邦の売上高及び資産の金額は、全セグメントの売上高の合計及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める割合がいずれも90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

〔海外売上高〕

前第2四半期連結累計期間（自 平成20年11月1日 至 平成21年4月30日）及び当第2四半期連結累計期間（自 平成21年11月1日 至 平成22年4月30日）

海外売上高がないため該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。